

## 定着防止区域（南部）等での状況について

### 1 箱根山地周辺でのニホンジカの状況

#### (1) シカの植生への影響等

環境省により行われた箱根地域での簡易植生モニタリング調査(平成 27 年度)によると、箱根山地のほぼ全域でシカの影響が記録されており、明神ヶ岳周辺と三国山周辺で特に強い影響が示された(図 1)。

また、小田原市久野地域を中心に活動している NPO 法人小田原山盛の会では、スギ、ヒノキの植林地でのシカの被害調査等を実施しており、小田原市久野地域でのスギヒノキ植林地での樹皮剥ぎや角砥ぎの被害が報告されている。(別冊資料参照)

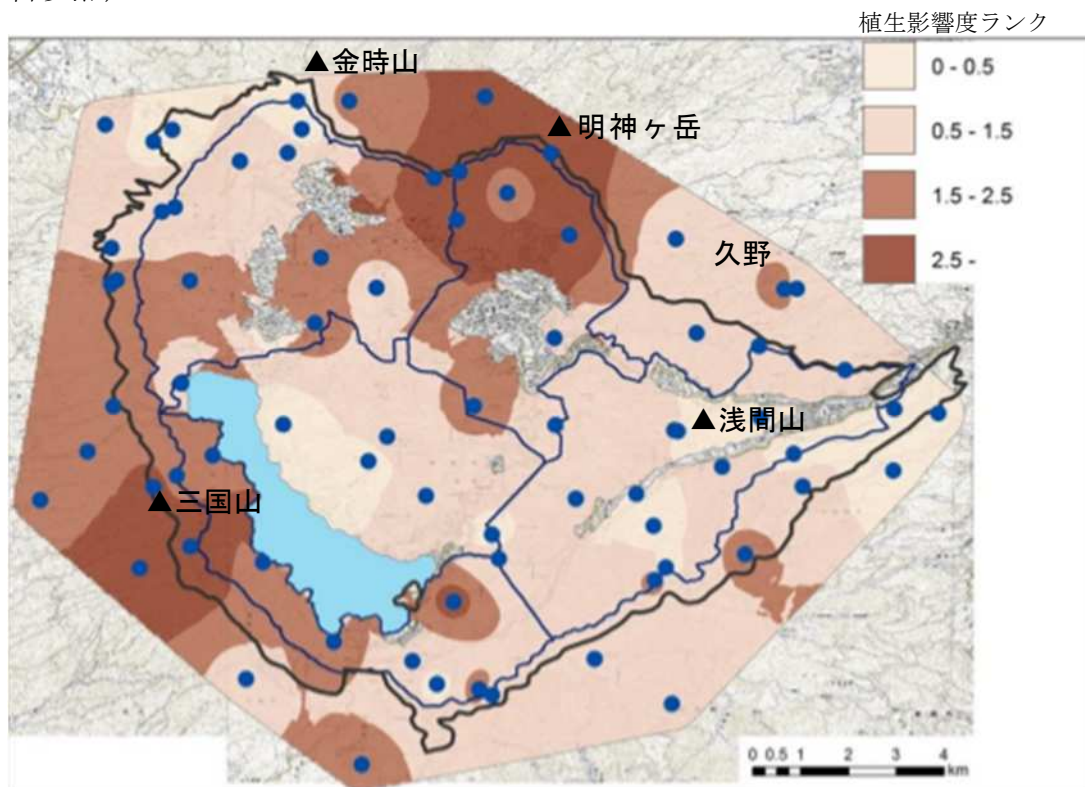


図 1 簡易植生モニタリング植生影響度評価図

#### (2) シカの捕獲実施状況等

##### ア 県による実施

- ・平成 30 年度は、丹沢での捕獲回数を一部箱根にシフトし、1 月末現在で、全 7 回 (H29: 4 回) の重点的な捕獲を実施しており、委託による管理捕獲では、明神ヶ岳周辺の山稜部において 15 頭 (計画 20 頭) のシカを捕獲した。ワイルドライフレンジャーによる試験捕獲な管理捕獲では、13 頭のシカを捕獲した。

## イ 市町村による実施

### ○箱根町

- ・主に猟友会による管理捕獲（銃器・くくりわな）と町職員による管理捕獲（罠いわな、くくりわな）が行われており、捕獲実績は年々増加傾向にある。

### ○小田原市

- ・近年、捕獲数が増加傾向にあり、特に久野地域、根府川地域（小田原城カントリークラブ）での捕獲が多い。
- ・平成 30 年度より地元猟友会の協力のもと市直営によるシカのわな捕獲を久野地域の 2 地点（塔の峰青少年の家跡地、和留沢わくワーク村）で試行している。

### ○湯河原町

- ・鳥獣の目撃情報等を情報提供してもらおうよう農業者に依頼しており、シカについては、平成 23 年頃から情報提供があるが、シカによる目立った被害（農作物被害等）は、まだ発生していない。

※イノシシについては、15～20 年前から農作物被害が顕著に表れてきており、現在は、生活被害も出ており、被害が生活圏まで拡大している。

- ・イノシシ捕獲を目的としたくくりわなにシカがかかることがあり、捕獲数は増加傾向で生息数の増加が懸念されている。
- ・近年の捕獲数増加から県では湯河原町についても管理捕獲計画頭数参考値を設定し、町では平成 31 年度から捕獲計画数を新たに設定し、山間部での定着防止を図るため積極的なシカの管理捕獲を実施する予定。



## 2 静岡県（県境部）でのニホンジカの状況

静岡県との県境部には、富士地域個体群・富士東ユニット（山北町と隣接）、富士地域個体群・箱根山ユニット（南足柄市、箱根町と隣接）、伊豆地域個体群・伊豆北ユニット（箱根町、湯河原町と隣接）が隣接している（図3・4・5）。

静岡県では糞粒法（一定面積・期間内に排出された糞の量から生息密度を推定）による生息密度調査が毎年実施されており、平成29年度の調査結果では、富士地域個体群・富士東ユニットで $39.1 \pm 12.8$ 頭/km<sup>2</sup>、富士地域個体群・箱根山ユニットで $5.9 \pm 2.6$ 頭/km<sup>2</sup>、伊豆地域個体群・伊豆北ユニットで $9.7 \pm 5.1$ 頭/km<sup>2</sup>という結果が示された（表1・2、別紙）。

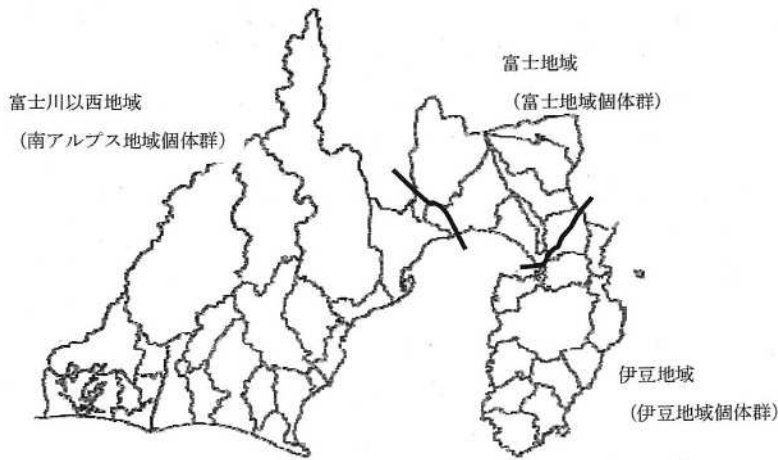


図3 静岡県第二種特定鳥獣（ニホンジカ）計画区域



図5 伊豆地域個体群管理ユニット

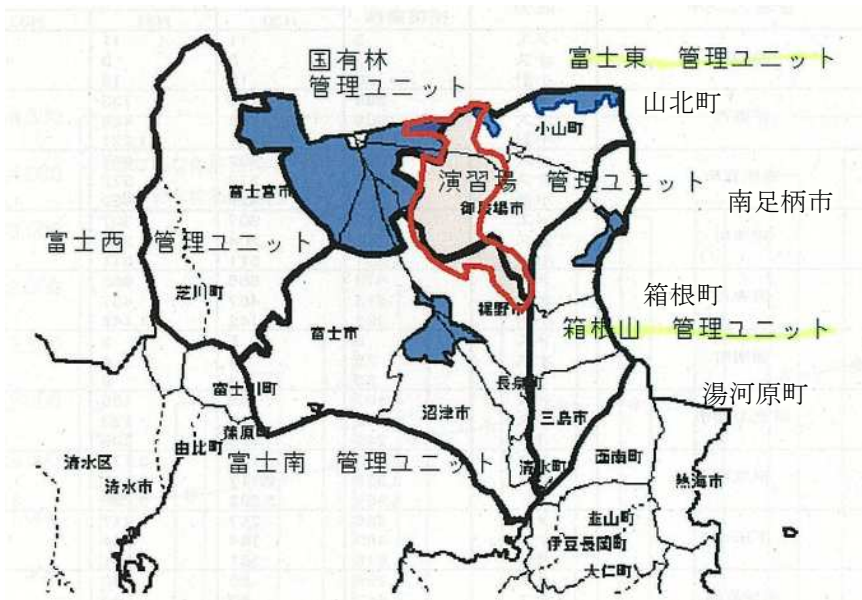


図4 富士地域個体群管理ユニット

表1 伊豆地域管理ユニット別 生息密度調査結果

(頭/km<sup>2</sup>)

ユニット	H13~15年度		H16~18年度		H19~21年度		H22~24年度		H25~27年度		H26~28年度(参考)		H29年度	
	平均±標準誤差	調査箇所数	平均±標準誤差	調査箇所数	平均±標準誤差	調査箇所数	平均±標準誤差	調査箇所数	平均±標準誤差	調査箇所数	平均±標準誤差	調査箇所数	平均±標準誤差	調査箇所数
全体	14.4±24.1	72	26.0±4.9	49	27.4±12.8	63	21.9±3.4	68	30.0±4.2	86	29.2±4.3	84	26.9±3.9	86
伊豆北	1.5±2.9	4	4.0±4.0	2	8.8±8.8	2	9.1±5.2	5	11.0±6.2	10	18.1±10.0	10	9.7±5.1	10
伊豆東	24.3±34.8	21	37.3±10.1	15	51.5±17.8	19	33.9±8.2	19	47.9±11.5	21	35.7±8.5	20	35.7±8.4	21
伊豆西	10.3±14.4	29	21.6±7.6	18	14.5±3.7	29	18.6±5.0	27	36.3±10.9	31	38.0±9.4	31	35.8±7.4	33
伊豆南	0.0±0.1	6	3.5±3.1	5	1.7±1.3	3	17.6±8.6	7	10.7±3.7	11	10.7±3.4	11	15.7±8.3	11
国有林	18.7±24.1	12	33.3±12.0	9	30.4±21.8	11	17.3±6.3	10	17.1±4.5	13	22.1±4.0	12	10.3±5.4	11

表2 富士地域管理ユニット別 生息密度調査結果

(単位:頭)

ユニット	平成16~18年度調査	平成22~24年度調査	平成25~27年度調査	平成26~28年度調査	平成29年度調査
	平均±標準誤差	平均±標準誤差	平均±標準誤差	平均±標準誤差	平均±標準誤差
全体	18.4±5.2頭/km <sup>2</sup>	23.5±4.7頭/km <sup>2</sup>	29.3±4.4頭/km <sup>2</sup>	31.8±4.6頭/km <sup>2</sup>	29.2±4.2頭/km <sup>2</sup>
国有林	50.1±15.9頭/km <sup>2</sup>	84.2±19.7頭/km <sup>2</sup>	62.0±11.4頭/km <sup>2</sup>	66.1±10.1頭/km <sup>2</sup>	50.5±9.2頭/km <sup>2</sup>
富士東	10.8±6.4頭/km <sup>2</sup>	9.7±4.8頭/km <sup>2</sup>	24.7±7.8頭/km <sup>2</sup>	50.0±21.9頭/km <sup>2</sup>	39.1±12.8頭/km <sup>2</sup>
富士西	10.9±4.7頭/km <sup>2</sup>	18.1±7.0頭/km <sup>2</sup>	22.9±7.3頭/km <sup>2</sup>	21.6±6.7頭/km <sup>2</sup>	16.3±5.3頭/km <sup>2</sup>
富士南	11.0±8.8頭/km <sup>2</sup>	7.5±3.3頭/km <sup>2</sup>	19.2±6.4頭/km <sup>2</sup>	19.2±6.1頭/km <sup>2</sup>	33.2±10.1頭/km <sup>2</sup>
箱根山	0.1±0.1頭/km <sup>2</sup>	0.8±0.8頭/km <sup>2</sup>	1.5±1.1頭/km <sup>2</sup>	3.7±1.9頭/km <sup>2</sup>	5.9±2.6頭/km <sup>2</sup>
演習場	未調査	37.7±11.9頭/km <sup>2</sup>	55.3±16.3頭/km <sup>2</sup>	54.8±16.5頭/km <sup>2</sup>	49.8±18.3頭/km <sup>2</sup>

### 平成29年度末時 伊豆・富士地域糞粒法生息密度図 (IDW)

